



国際ロータリー第 2530 地区 東北第一分区

福島南ロータリークラブ会報

事務局連絡先 024-546-3793



新春特別号① (第 23 回例会分)

2021.1.4



国際ロータリー会長

ホルガー・クナーク Holger Knaack

国際ロータリー第2530地区ガバナー 石黒 秀司

福島南ロータリークラブ 会長 松崎 弘昭

標語「後から来る者の種火となって共に熱く燃えよう」

例会会場連絡先/クーラクーリアンテナパレス TEL 024-523-3811 毎週水曜日 12:30~

◆会長挨拶 松崎 弘昭 会長



皆様、明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、立てた一年の計をそれぞれが実現すべく、歩みだしていることと思います。

大晦日の夜が明けると、元旦、そしてお正月ということになるのですが、昨日と何も変わらないものを目にしながら、何となく精気に溢れ、何故か目にするもの全てが新鮮に見え、心地よく感じられ、心が引き締まる思いがします。

会員の皆様には、それぞれにそれぞれの形で新しい年を迎えられたことと思います。昨年は、新型コロナに翻弄された一年でしたが、今年に入っても未だ収束の兆しが見えてこないようです。今年の市内7クラブ新年合同例会(第23回例会)、そして、クラブ新年会は残念ながら中止となってしまいましたが、クラブ会報の中で新年の会長挨拶をさせていただきます。

先日、何気なく見ていたテレビに福島県三春町の僧侶玄侑宗久氏が出演しているのを目にしました。僧侶は「コロナ禍の状況をどのようにして生きていくか。」の問いに対して「諦めること」と言っていました。仏教用語としての「諦める」は、世間で使われる「諦める」とは少し違うようなのです。兎角、マイナスイメージに感じる「諦め」は、本来は、プラス思考の言葉であって、何を諦めるかの違いで捉え方が違ってきます。仏教でいう「諦め」は、囚われているものを明らかにして、その囚われから脱却することなのです。例えば、試験で1点でも高い点をとることに囚われている人がいた場合、その真実は、思ったような点が取れないことに悩むのではなく、点が取れなかった部分に学びがあるのだということを明らかにするのです。そうして目的と手段の違いが分かってくると、囚われていた自分から、少しは逃れられるということなのです。

会員の皆様には、新型コロナウィルスに対して、命を守る最善の行動をお願いすると共に、目に見えないものに対する必要以上の恐れや囚われを抱くことがないように注意して頂きたいと思っております。

考えてみれば、長い歴史の中で人類は、ウィルスだけでなく、常に危険と隣り合わせで生活しており、その中で、先人たちは知恵を出しながら生き抜いてきたのです。

このパンデミックの今こそ、知恵を出す時なのです。ただ「困った、困った」と言っても何も生まれません。今だからできること、今しかできないことが必ずあるはず。体の行動は制限されても心の行動は無敵大なのです。

人間を含め生物の進化は、適度なストレスがかかることによって体の防御システムが始動し、その連続が進化となって表れてきます。そして、どんな苦境にあっても、そのストレスを克服できないような大きいものと捉えるか、適度なストレスと捉えるかは心の思いのようなのです。

「受量覚量、開運降臨」

この言葉は、大きな問題に遭遇したときの精神的な支え、あるいは、その対処法として心に留めている私の造語です。自分に関わることで何か問題が発生し、苦境に陥った時は、たとえその原因の多くが他者にあったとしても、先ず、それを逃げずに受け入れる。次に、その事態の最悪の結末(シナリオ)を想定する。そして、その結末(シナリオ)に覚悟を決める。この覚悟を決めることが中々難しいのですが、何とか覚悟を決めたら、今度はその対応に最善を尽くす。自分の損得や立場とか体裁を気にすることなく、一生懸命尽くすのです。

そこまで対処した後は、くよくよ悩んだりせず今度は開き直る。そして、運を天に任せ、神様が降りてくるのを待ちながら、苦境に泰然として臨むのです。

そのような気持ちで対処していけば、全て好転することはないとしても、少なくとも最悪の結末(シナリオ)にはならないものです。神様がいらっしゃるかどうかは、分かりませんが、明るい兆しは前を向いている人にしか見えないようです。

人生50年の時代から見れば、クラブのほとんどの会員はあの世に逝っていてもおかしくはないのですから、せめて、与えられた余生を精一杯前向きに、世の中のお役に立ちながら、自然に倒れるまで歩き続けたいものです。



松崎会長のほのぼののナップ写真:「孫と作った雪だるま」と「おせちで満足」 *お正月、ご家族でのほっと一息ですね!!

■協賛支援のご報告(福島南RC姉妹クラブ担当 鈴木 光一 会員)

東京麹町RC様が支援をしておりますシングルマザーへの支援ということで、1回目の支援品は福島南RCからは「りんご・フジ」3kg入り3箱をお米「福島市のお米(天のつぶ)」5kg18袋と一緒に1月5日に先方のシングルマザーの会事務局に届きましたとの連絡が入りました事をご報告致します。

2回目は2月初旬に当クラブから「福島のお餅」を予定しております。

(農業生産法人(株)カトウファーム 加藤 晃司様からお米と一緒に送りました)

【加藤 晃司様は、昨年度メキシコからの留学生「ミゲル君」引受頂きました、ホストファミリーです】

「天のつぶ」について

(福島県オリジナル水稲新品種)

1 育成経過

「天のつぶ」は、平成7年に、福島県農業試験場(現福島県農業総合センター)において耐倒伏性が強く、食味が良好な品種を目指し育成を始め、15年の歳月をかけ完成した県オリジナル品種です。



2 命名への想い

穂が出るときには天に向かってまっすぐ伸びる稲の力強さを、そして、天の恵みを受けて豊かに稔(みの)る一粒、一粒のお米を表しています。

本県の清らかな水と大自然を活かし、農家のひたむきな情熱によって育まれたお米の一粒、一粒を、県民の皆さんはもとより、県外の多くの方にも食卓に笑顔と温もりをもって、味わって頂けるよう、想いを込めて命名しました。

3 食味 [ひとめぼれ・コシヒカリに匹敵するおいしさ]

「天のつぶ」の玄米のタンパク質含有率は、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」並、白米のアミロース含有率は、「ひとめぼれ」並で粘りが強く良食味でお米マイスターによる食味評価では、食感がしっかりして、比較品種と同様以上の良い評価を得ています。